



要約

ブックツーリズムとは、本をテーマにした観光のことです。本屋や図書館、文学にゆかりのある場所を巡ることで、本と人、人と人との出会いを生み出す旅のスタイルとされています。今年の5月に旅したパリとロンドンでのブックツーリズムと日本でも出来るブックツーリズムをご紹介します。本を巡る旅をしませんか。楽しいですよ。

鹿田 浅井一夫

※「参考図書」世界の美しい本屋さん

(著者 清水玲奈)

私たちの国際交流

「ブックツーリズムの勧め～怒涛の

ロンドン日帰り旅行編」

前回のパリに続きロンドンでのブックツーリズム編をご紹介します。ロンドンはパリ滞在中の1日を使い5月14日に訪問しました。イギリスを訪れたのは、思い返すと2回目で31年前の新婚旅行の時に名古屋空港(現県営名古屋空港)からブリティッシュ・エアウェイズでパリへ行く途中のトランジットとしてヒースロー空港に一時滞在しました。その時に空港から見た街並みがきれいであったことが鮮明に記憶にあります。

そのイギリスですが、EU から離脱したため、日本人を含むビザ免除国の渡航者でもパスポートのほかに電子渡航認証(ETA)の取得が義務付けられていて、列車による移動でも入国審査があり、飛行機と同じで出発時刻の2時間前に駅へ行って審査を受ける必要がありました。

そのため、8時32分発のユーロスター(Eurostar)に乗るため、ホテルの朝食をキャンセルして6時にホテルを出発し、6時30分頃パリ北駅に到着しました。始発駅であり、各国へ向かう列車が何台も止まっていて、これだけ大きい駅は見たことなく感嘆しました。また、すでに入国審査待ちの乗客で長蛇の列が来ていました。

ユーロスターは最高速度 300km の高速鉄道で英仏海峡(ドーバー海峡)を横断し、2時間30分で、ロンドンのセント・パンクラス駅に到着しました。時差が1時間あるためロンドン時間では午前10時でした。

帰りの列車が午後6時であったため、2時間前の午後4時に駅へ到着する必要があり実質6時間のロンドン旅行なので、廻れる観光地も限られてブックツーリズムとしては、本屋2カ所となりました。

ロンドンで最初に訪れたのは、「Daunt Books(ドアント・ブックス)」です。ロンドンのメアリルボーン・ハイストリートにある美しい書店で、1990年の創業で旅行関連の書籍を中心に取り扱っています。エドワード朝時代の建築を活かした店内は、長いオーク材のギャラリーと優雅な天窓が特徴で、建物は1910年に建てられ、エドワード朝時代の建築様式を活かした美しい内装が特徴でクラシックな雰囲気を出しています。

書籍が「国・地域別」に分類されており、旅行ガイドだけでなく、その国の文学や歴史書、エッセイなどが一緒に並べられており、ロンドンを訪れた際に立ち寄るべきスポットとして、多くの旅行者にも愛されていて、本好きが集まる本屋となっています。

次に訪れた書店である「ハッチャーズ(Hatchards)」は、1797年創業のロンドン最古の書店で、ピカデリー通りにある歴史的な本屋です。200年以上にわたり同じ場所で営業を続けており、現在もそのクラシックな雰囲気を保っています。オスカー・ワイルドやバージニア・ウルフなど、文学界の巨人たちにも愛され、英国王室御用達の書店としても知られ、チャールズ国王、エリザベス女王、フィリップ殿下から3つのロイヤルワラントを授与されています。ロンドンの文化と歴史を象徴する書店でした。

ただ心残りのことがあり、「大英図書館(British Library)」に行けなかったことです。世界最大級の蔵書を誇り、ユーロスターが発車するセント・パンクラス駅の隣に本館があったため、最後の締めくくりとして訪問する予定でしたが、時間が無くなりやむなく取りやめました。旅行者は図書館の利用はできませんが展示室は無料で見学することができ、1215年に発行され

た大憲章マグナ・カルタやシェイクスピアの初版本、レオナルド・ダ・ヴィンチのノートやルイス・キャロルの「不思議の国のアリス」の原本、ビートルズの自筆歌詞などを見学する予定でした。

泣く泣くユーロスターに乗ってパリへ戻りました。時差が1時間あるので午後9時30分頃パリ北駅に到着しました。5月のパリの日没は午後9時30分頃なので夕暮れのパリを車窓から見るのができ旅情を満喫しました。大英図書館は行くチャンスがあればなと思っています。

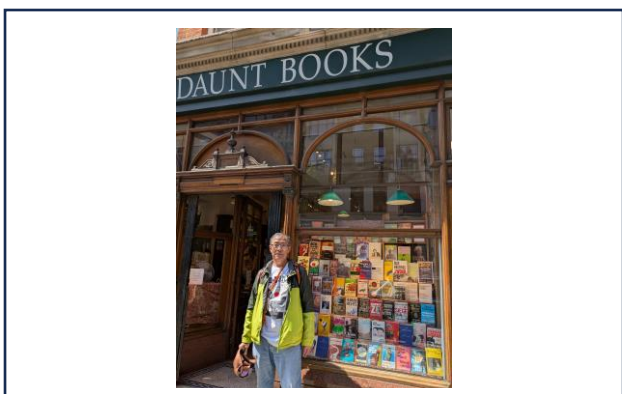
さて、日本はどうかというとイギリスの新聞社ガーディアン紙が、2010年7月に「The world's 10 best bookshops」と題して、世界の美しい本屋を発表し日本からも1店舗選ばれており、そのお店が京都にあります。

その本屋さんは「恵文社一乗寺店」(所在地 京都市左京区一乗寺弘殿町10、電話 075-711-5919、年中無休)です。京阪電車で「祇園四条駅」から「出町柳駅」へ。そこから叡山電鉄に乗り換え「一乗寺駅」で下車し駅から徒歩約3分です。私も訪問したことがありますが、とても素敵な本屋さんでした。京都へ観光においでの際は訪問されてはいかがでしょうか。

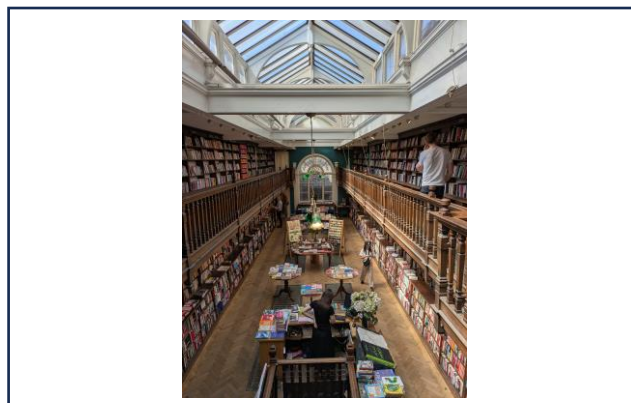
また、近場で個人的にお勧めしたいのは、岐阜市にある「みんなの森 ぎふメディアコスモス」(所在地 岐阜県岐阜市司町40-5、開館時間 9:00～20:00、電話番号: 058-262-2924)です。岐阜市役所の北側にあり、滞在型の公立図書館として親しまれています。約90万冊の蔵書を誇り、知の拠点の役割を担う市立中央図書館、絆の拠点となる市民活動交流センター、多文化交流プラザ及び文化の拠点となる展示ギャラリー等からなる複合文化施設で、館内にはカフェやコンビニもあり、とても素敵な図書館です。とても広い芝生があり紅葉の季節がお勧めです。

もっと近いところは、「WILDCATBOOKS」(ワイルドキャットブックス/所在地 岩倉市大地町郷内1217、電話 0587-84-2487、開店 木曜日～日曜日 11:00～19:00)という古本屋さんです。ワイルドキャットは、岩倉駅東口近くにあったやまねこ亭の元店長さんが開いた独立系書店で絵本、児童書を中心とした品ぞろえで古民家を改装した店内には靴を脱いで入るのですが、古本、CDともに70年代、80年代のものが多めで、今なお愛され続ける絵本、名盤、希少本を取り揃えていて懐かしい本達が迎えてくれます。

ぜひ、皆さんもブックツーリズムを楽しんでくださいね。



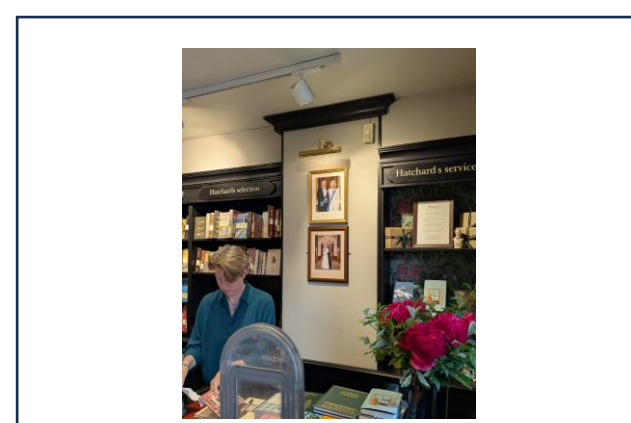
(ドント・ブックス書店前)



(ドント・ブックス書店内)



(ハッチャーズ書店前)



(ハッチャーズ書店内)



(京都 恵文社一乗寺店前)